ロンドン大学・ガンビア MRC 見学を終えて（LSHTM 編） 02～15/Feb/2019

増田　真吾

2019 年 2 月に2週間の日程でイギリスのロンドン大学とアフリカのガンビアにある MRC 研究所を訪問しました。2018 年度に文部科学省の卓越大学院プログラムに、ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）と長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科（TMGH）が中核母体としてけん引する学位プログラムが採択されました。2019 年 3 月 9、10 日に長崎にて同プログラムのキックオフシンポジウムが開催されること、また Joint-PhD プログラムの調整、さらにはガンビアにて現在行われている研究の進捗確認のために有吉教授が現地に向かわれることとなりました。非常に幸運なことに、海外での仕事や研究に興味のある私も、今回同伴させていただけることとなりました。

最初の 1 週間はロンドンにて過ごしました。雨のロンドン、ではなく非常に天気のいい中での移動でした。初日は、有吉先生が以前働いていた St Mary's 病院や Alexander Fleming が昔来ていたという Bar、有吉先生も週末によく仲間と集まっていたという大きな公園などを巡り、昔の思い出話などを教えてもらいながら、ホテルまで移動しました。

ST MARY'S HOSPI
St Mary's Hospital Guide

翌日からは文字通り朝から晩まで、常に有吉先生が Joint-PhD やキックオフシンポジウムの調整に奔走され、それに私も帯同させていただきました。1 週間の間にお会いできた教授陣のインパクトファクター（ちょうどその際にドラマで流行っていましたが）を調べたら大変な数になっていたでしょう。ただ皆さん全員が、ありきたりな表現しかできないのですが、とてもオーラのある方でした。また、とてもフレンドリーでした。途中、LSHTM の講義（ポリオ）などに参加したり、日本から LSHTM に現在留学している日本人の方のお話を伺う機会もありました。LSHTM のすぐ裏には大英博物館もあります。無料で様々な展示を見ることができ、幼稚園児からお年寄りまでたくさんの方が展示を楽しんでいました。今回は有名どころのみ（ロゼッタストーンやミイラなど）を回りましたが、それでも十分面白いところでした。

LSHTM の空気・雰囲気を実感できた 1 週間でした。特に地下にある広場では、どの時間でもみんなで集まりながらしきりに議論している学生たちを多数見かけました。金曜夜からは Bar になるようで、ここでお酒を飲みながら議論を深めていく、そんな広場のようです。休日になるとその飲みの痕跡が多量にありましたが、非常に印象的だった空間でした。なんとか 1 週間の期間に調整できるところを終え、西アフリカにあるガンビアに向かいました。ガンビア編に続きます。